

# 仏教企画通信

発行日 | 令和5年6月1日  
72号

発行所 | 有限会社 仏教企画  
〒252-0116  
神奈川県相模原市緑区城山4-2-5  
Tel.042-703-8641  
Fax.042-782-5117  
発行人 | 有限会社 仏教企画代表 藤木隆宣  
Email | fujiki@water.ocn.ne.jp

戦争の背後には、しばしば宗教権力が介在していた。現在のロシアによるウクライナ侵略を支えている大きな勢力としてロシア正教があり、中東などではイスラム教権力が往々にして戦争の背後に存在している。かつてはキリスト教権力が同じような役割を果たしていた。なぜ、宗教はときに戦争を鼓舞する勢力になってしまふのか。今回はこの問題を考えてみようと思う。

## 政治思想としての宗教

二十一世紀に入った頃から、私たちはしばしば一神教、多神教という言葉を目にするようになった。だが私は、この分け方をあまり重視していない。たとえば、神と三位一体の関係にある聖霊は、すべての人々のなかに宿っているという汎神論的な考え方はキリスト教のなかにも存在してきただけをみれば仏教は「多神」だとみなすこともできる。だが釈迦が解脱してえた真理はひとつなのであり、だとすれば諸仏が会得した真理もまたみな同じだということができる。諸仏とは真理の顕れ方の違いなのであって、仏陀としての真理は「一神」であり、その現れ方は「多神」である。その現れ方もできる。日本の神々もアマテラス、スサノオといった天皇家の先祖神は多神であるが、自然を神として祀った土着の神々は、つきつめれば自然をつくりだす真理という「一神」にたどり着く。多神教、一神教という分け方はさほどの意味はないのである。

ただをみれば仏教は「多神」だとみなすこともできる。だが釈迦が解脱してえた真理はひとつなのであり、だとすれば諸仏が会得した真理もまたみな同じだということができる。諸仏とは真理の顕れ方の違いなのであって、仏陀としての真理は「一神」であり、その現れ方もできる。日本の神々もアマテラス、スサノオといった天皇家の先祖神は多神であるが、自然を神として祀った土着の神々は、つきつめれば自然をつくりだす真理という「一神」にたどり着く。多神教、一神教という分け方はさほどの意味はないのである。

むしろ重要なのは次のような点にある。それは宗教には、政治性を内蔵している宗教と、政治性を内蔵していない宗教とがある、ということである。たとえばユダヤ教をみると、流浪の民として各地に点在、放浪し、しかもしばしば迫害に遭っていたユダヤ人をまとめていく政治的機能と一体のかたちでそれは成立した。ユダヤ人たちに、神に選ばれた民というアイデンティティを

付与し、ユダヤ教で結ばれたユダヤ人社会をつくりだした。それは宗教思想であるとともに、一つの政治思想だった。紀元に入ってしばらくすると、このユダヤ教のなかからキリストという改革派の伝道師が現れてくる。ユダヤ教では、ユダヤ人のみが神に選ばれた民であり、死後に天国にいけないとされていたが、キリストはユダヤ人でなければならぬというところを取り払

につづくキリスト教として成立したのは、三〇〇年代に入ってからだった。三〇六年にローマ帝国でコンスタンティヌス一世が即位する。この治世下においてキリスト教は公認されるとともに、ローマ帝国の国教になった。当時危機を迎えていたローマ帝国を立て直すために、皇帝は神の権威を借りたのである。それまでのローマ帝国では皇帝崇拜が強要され、神を崇拜する宗

さらに述べれば、キリスト教もまたユダヤ教と同じように政治的役割を内蔵していたがゆえに、閉じられた宗教という性格をもっていた。もちろんキリスト教は、すべての人に開放されている。だがユダヤ教がユダヤ人の宗教という閉鎖性をもっていたのと一

## 政治と宗教の一体化

# 宗教権力と政治を考える

### なぜ宗教は戦争を鼓舞するのか

内山 節

ったのである。神に従う者は誰でも天国にいけるとするこにより、民族宗教であるユダヤ教を民族を超えた普遍的な宗教に変えた。それがキリストによる改革の柱だった。といっても、キリストによってキリスト教が生まれたわけではない。キリスト以降に、キリスト教徒のコミュニティは生まれていったが、巨大な宗教として確立されたわけではなかった。キリスト教が今日

教は権力にとって邪魔なものであったが、皇帝崇拜が維持できなくなった時代のなかで、神の権威を借りて皇帝を神格化するという試みがなされたのである。それとともに、この過程で父(神)と子(キリスト)と聖霊を同一のものとしてみならず三位一体説などの教義も整備されていった。キリスト教もまた政治的な役割を内蔵させながら新しい展開をとげていったのである。

面では同じように、キリスト教もキリスト教を信仰する、神を信仰する人へのみ救いの手を伸ばす宗教だという閉鎖性をもっているのである。この閉鎖性がゆえに神の絶対化が成立し、その絶対的な権威に補完されるかたちで世俗の王の権威化が実現した。根本的なところで、政治と宗教が一体化する基盤が内蔵されていたのである。もうひとつユダヤ教やキリ

スト教と神を同じくする宗教にイスラム教がある。そしてそれもまた、遊牧民の生活をするアラブやペルシャ、トルコなどのさまざまな部族を統合していく政治的役割を内蔵していた。宗教と政治は不可分のものだったのである。絶対的な真理を語る宗教は、絶対的な権威としての神をもち、ゆえに権威の下に統合された世界の形成という政治性を内蔵させていくことになる。ところが仏教はそういうものではなかった。もちろん仏教も、ときに政治権力が利用しようとしたときはあったし、逆に仏教団が権力に寄り寄っていくこともあった。だがそれらは仏教からみれば邪道であり、仏教教義のなかに政治的役割は内蔵されていないはずである。仏教がめざしているのは悟りを開くこと、真理に気づくことであり、概念によって構造化された現実世界は仏教の真理からみれば虚構でしかない。この虚構の世界に本質的な価値はないのであって、そうである以上、現実世界での政治的役割など、教義のなかに内蔵させようもない。ただし仏教も次のような点は気になる。仏教教義のなかには、たとえば五逆の徒は無間地獄に墮ちるといったものもある。そして、だとするならば、成仏への道のりは一部の人間たちには開放されていないということになる。だが、仏教とはそういうものなのだろうか。自然も人間も、さらには宇宙の星や地上の岩までの







お墓と永代供養

法清寺は一六四九(慶安二年)開創とのこと。お檀家さんもお近所の方が多いいのでしょか。

奈良 最近では状況が変わってききました。この辺りは相続税が高いため、世代交代のさいに住み続けられず遠くへ引越す方が多いのです。都内ならまだ近いほうで、川崎や秦野、この間は横須賀まで法要にでかけました。

お寺とお檀家さんの家の距離が遠くなるのは、さまざまな状況があるんですね。多くのお寺さんが抱えている問題でもありますが、お檀家さんが減り困るといいうのと、後継ぎがいなくて墓を守る人がいないというのは、表裏一体の問題です。こうした問題には、どのように対応されていますか。

奈良 私のところでは永代供養の納骨堂をつくったので、必要な方には墓じまいを奨めています。納骨堂で永代供養をするというもので、これによってある程度動きがありました。ですが、若い方々は、上の代が生きている限り墓を乗り換えにくいそうです。ですから、その方とは「最後の人が亡くなったあと三回忌まではお寺で供養する。三回忌が済んだら、納骨堂に移して永代供養をする。その際には墓石は撤去する」という契約をしています。

これからの寺院活動のために

一 師 一 修 良 奈

とを扱うプロである僧侶に自分の死後のことを約束して頂けると、安心できますね。

寺院のこれから

永代供養墓は、お墓をまとめた側としてはすぐあ



奈良修一(ならしゅういち) 東京都生まれ。法清寺住職。歴史学者。慶應義塾大学大学院文学部史学科東洋史専攻。一九九〇年にオランダのライデン大学に留学。公益財団法人中村元東方研究所の研究員。著書に『鄭成功 南海を支配した一族』(山川出版社、二〇一六年)がある。

りがたいことですが、お寺の方々にとっては、どんどんお墓が減っていくことにも繋がりますね。

のかというのが重要だと思うのです。少子化や後継不足という問題はお寺にも一般家庭にもありますから、将来お檀家さんが減っていくのは目に見えています。問題はそうしたときに、お寺がどういう役割を果たすのか。お坊さんとして、出家修行者として

自覚を持って生きる、これは大前提で忘れられては困ることです。その活動として、法要などによって人々の心を癒やすことや、カウンセラーのようなことをやるのもいいですし、墓の後継者がいない人のための永代供養をするということでもいい。あるいは地域社会に対していろいろと社会活動をするということがあってもいいと思います。今後、いろいろ考えていかなければならないことだと思います。

奈良 現代の日本のお寺が、すぐにタイなどテラヴァーダ的なお寺のあり方にはできませんが、状況に合う形で社会に還元していくことは重要です。伝統的な物事の説明や現在の問題を、仏教徒としての私たちの立場で伝えるのも一つの活動です。お坊さんはそうやって法を説いていくことを忘れてはいけないだろうと思います。お寺の将来を考えると、法要を行いそのブラスアルファを考えていきたいですね。

お位牌の重要性

われわれが自分の家で実践すべき事柄があれば、教えて下さい。

奈良 家に仏壇があればそこでおつとめをするのが良いですが、ない場合は拝む場所を作るのが良いですね。拝む対象、仏像などを置いて、そこに故人のお位牌があることが重要だと思っています。位牌は、仏教由来のものではありません。インドではなく、東アジア、いわゆる儒教

文化圏のものです。有名な孔子はお母さんがいわゆるシャーマンで、葬送儀礼などをしていたと言われています。ですので、孔子はそうした儀礼をきちんとして行っ事社会秩序を保つのだと説きました。孔子廟でもそうですが、中心に位牌があつて二代目、三代目、四代目、五代目と位牌を置いていくのが東アジアの先祖の祀り方です。そうすることで先祖以来の一族だという結束を固めてきたのが儒教圏の一つの伝統です。

お檀家さんから、長男の家に位牌があるけれど、次男の私も位牌を作つて良いかと聞かれる事があります。私は「それぞれが位牌を通してご先祖さまをお祀りするんだから、いくつあつても良いのです」と言っています。しかし、人によって「位牌は本家だけ」という発想があるようです。儒教の伝統から言えば正しいのでしょが、現代日本には合いません。一族郎党同じ村に住んでいるならその必要もないですが、親子が別の地域に住んでいたり、兄は東京で次男はロンドン在住ということもあるわけです。そうしたときはそれぞれの家でお位牌を持つてお祀りすればいいのです。

お墓が近くになつても、位牌がご先祖さまにつながる扉みたいなものですね。奈良 精神科医の故・小此木啓吾先生が講演で次のような話しをしていました。日本とアメリカで、突然夫に先立たれた女性のその後を観察する

比較研究があつたそうです。もちろん事故直後は両者ともパニックになり、落ち着かない。ところがお葬式を経て三、四、五年後と過ぎてゆくと、アメリカの女性はカウンセラから離れられないのに、日本女性は落ち着いていくそうです。何が違うのかといふと、お位牌の存在なんだそうです。アメリカにはお位牌はありませんから、女性はお墓に行き故人を悼むしかありません。日本の場合には仏壇がありお位牌があつて、毎日語りかけることができるわけです。それにより非常に心が安定するのだそうです。精神科医の先生から、お坊さん方はもっと位牌の重要性を説かなければ駄目だと言われたことがありま

す。ですので、お位牌を持つていくことは重要だと思っています。

僧侶と民衆のかかわり

奈良 日本の盆踊りは、仏弟子の目連が、餓鬼道に墮ちたお母さんが救われたことを喜んで踊つたのが起源だとされていますが、このエピソードは日本にしかありません。「喜んだ」という話があります。「踊つた」という話は出てき

ません。もともとインド仏教においては、お坊さんは音楽や踊りに触れてはいけないのです。なので、お坊さんが踊るといふことはあり得ないのですが、日本では空也さんの踊り念佛

目連さんのお母さんは、供

りながら念仏を唱える。その念仏踊りが結局盆踊りと結び付いたのだと言われています。歌舞音曲から離れたよう言われているインドの僧侶は、世俗の行事にあまり触れるなとも言われていました。お釈迦さまが修行僧に「葬儀にかかわるな」と仰つたのに、今の日本のお坊さんは葬儀に関係してしまつていふと言われているのですが、実はこれは間違

いだと言われています。いろいろな伝承を読みますと、信徒がお坊さんを供養して得た功德を、亡くなった人に回向するというのを散々やつていふわけです。つまり、かかわつていないわけではなく、さまざまな儀礼や法要などを介して仏教教団は一般社会との関係があるわけです。そういう文化的なこととはあまり研究されていないので、もう少しやるべきだなと考えています。このあたりは私がい

うより、父親の奈良康明の受け売りでございませうけれど。民衆がどう感じてどう行動したのかというのは、すごく魅力的なテーマですよ。奈良 仏教の教理はもちろんなければ困るし大事なのですが、教理を実践に移さなければ意味がない。それと同時に一般の人々が仏教徒ですと言つた時、それは教理を学んでいふという事ではなく、仏教儀礼に参加したり、仏教的な考え方の実践をしていふという事であつて、教理とは離れた世界がそこにはあるのですよ。

養してもらふことで餓鬼道から救われたというのですが、実をいうと、これはある意味大問題なんです。仏教はそもそも「自業自得」の考え方です。目連さんのお母さんは、何らかのことをやつてしまつたから餓鬼の世界に落ちて苦しむのであつて、その業が消えるまではそこから逃れられないはずなんです。ところが、みんなが供養したら逃れられたというのは、自業自得の理論から言う

とちよつとおかしい話なので、教理的には、ところが一般的には、亡くなった人に供養すると良いところに生まれるという。これは輪廻転生の考え方です。インドでも当然使われていますが、自業自得という建前でありながら、亡き人を弔い功德を積むことでその功德を亡くなった人にも回向するという文化は、これはもうお釈迦さまの時代からあるのです。

追善供養ですね。奈良 そうですね。サンガ(僧団)に供養する功德によつて、餓鬼が救われるといふます。これはいわゆる民間信仰ですから仏教教理とは直接は関係ない。ところが仏教教団が拡大するにつれて、そうした民間信仰や儀礼を仏教のものとして採り入れたからこそ、目連さんの話が成立するわけです。もちろん教理も知らなければ困りますが、一般的な慣行とか儀礼、行事というものは仏教の重要なパーツとして大事にしていかないと

れなのです。目連さんのお母さんがいた餓鬼道。「餓鬼」とはサンスクリット語でプレータといふです。もともと「行く/去る」という意味の「プライ(pai)」という動詞から派生して「行った者/亡くなった人」といふ言葉になりました。パラモン教の時代から、亡くなった人にそうした儀礼をすること



聞き手…加藤順子

日七日の供養の意味です。ですから、亡者から先祖に変わつていくという儀礼がもともとインドにあつて、それが仏教儀礼のほうにも入つてきたりします。これが東アジアになります。七日間と同時に、百か日・一周忌・三回忌の十個を集めて、十王の裁判になつてくるのです。この十王は五番目の閻魔王以外は全部中国起源の神々で、そういう形で採り入れていくのですね。

奈良 仏教が民衆に受け入れられた背景には、こうして相手の文化を採り入れてきた仏教の柔軟さがあるのです。現代のわれわれも、そのように柔軟性を持つて目前の問題に向き合つて行く必要があるでしょう。



「世界平和統一家庭連合(統一教)の解散命令請求」については、文部科学大臣が昨年十一月から五回回遊を行って、教団側が知事一週で回答するなど、実のある調査はなされていない。一方で、教団側は「本邦地のある国と日本が合同結婚式を開催するなど、華々たる生活展開」を誇りにして、解散命令を求めた。この調査は、文部科学大臣が昨年十一月から五回回遊を行って、教団側が知事一週で回答するなど、実のある調査はなされていない。一方で、教団側は「本邦地のある国と日本が合同結婚式を開催するなど、華々たる生活展開」を誇りにして、解散命令を求めた。

# 調査開始から半年 停滞ムード

## 質問権の行使も…証拠つかぬか?

「証拠つかぬか?」と証拠を握りかかっている。文部科学大臣が昨年十一月から五回回遊を行って、教団側が知事一週で回答するなど、実のある調査はなされていない。一方で、教団側は「本邦地のある国と日本が合同結婚式を開催するなど、華々たる生活展開」を誇りにして、解散命令を求めた。



合同結婚式・土地購入裁判闘争…

「質問権の行使」は、文部科学大臣が昨年十一月から五回回遊を行って、教団側が知事一週で回答するなど、実のある調査はなされていない。一方で、教団側は「本邦地のある国と日本が合同結婚式を開催するなど、華々たる生活展開」を誇りにして、解散命令を求めた。

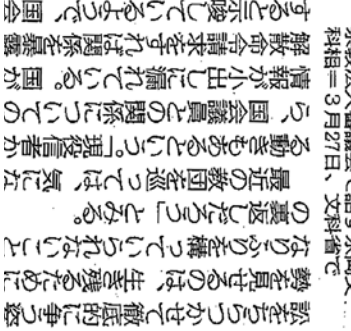


5月13日の質問権行使について

「証拠つかぬか?」と証拠を握りかかっている。文部科学大臣が昨年十一月から五回回遊を行って、教団側が知事一週で回答するなど、実のある調査はなされていない。一方で、教団側は「本邦地のある国と日本が合同結婚式を開催するなど、華々たる生活展開」を誇りにして、解散命令を求めた。

合同結婚式・土地購入裁判闘争…

「質問権の行使」は、文部科学大臣が昨年十一月から五回回遊を行って、教団側が知事一週で回答するなど、実のある調査はなされていない。一方で、教団側は「本邦地のある国と日本が合同結婚式を開催するなど、華々たる生活展開」を誇りにして、解散命令を求めた。



5月13日の質問権行使について



# 「統一教」への解散命令請求 びんがた

# 2023年7月上旬刊行予定 佐々木宏幹 著

# 仏教人類学の諸相

シャーマニズムの泰斗、90年の思索 幼少期の著者がみつめた 仏教のさまざまな姿を 人類学の視点から叙情的に描きだす

目次

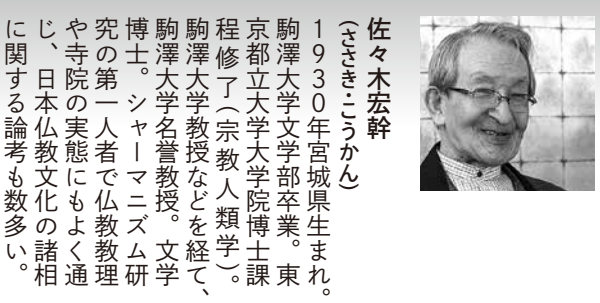
序 「生きられる仏教」を身近に 島蘭進	Ⅰ 仏教人類学とは 説かれる仏教と生きられる仏教のあいだ 仏教人類学的アプローチ	Ⅱ 思い出の歳時記 1 正月に考えさせられたこと 伝統的民俗の衰退について 早春に思うこと 最近の寺院活動について 彼岸会にちなんで 孟蘭盆会の季節を前に想う 4 3 2 1 2 1 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000
---------------------	--	--

佐々木先生のシャーマニズム研究でなされているフィールドワークは、「生きられる仏教」の当事者たちとの共生感が土台になっている。佐々木先生のフィールドワークの場がそこである。佐々木先生がみつけた、幼少期の著者がみつけた、仏教のさまざまな姿を、人類学の視点から叙情的に描きだす。

本書には、佐々木宏幹先生の生涯の歩みに根差した懐かしい思い出と、それにまつわる知恵の数々が描かれている。そしてまた、仏教人類学と宗教学の核心的な問題が心にしみ入るよう書き込まれている。佐々木先生の学問的な著作に慣れた読者であれば、そうした著作の背後にある佐々木先生の人間性と宗教性に心打たれるだろう。多くの方々に熟読玩味していただきたい書物である。

ハガキ・電話・FAX・メールにてご注文ください。(送料が別途かかります)

仏教企画  
ハガキ 〒252-0116 神奈川県相模原市緑区城山4-2-5  
電話 042-703-8642  
FAX 042-782-5117  
Eメール fujiki@water.ocn.ne.jp



曹洞宗寺院から出て、シャーマンたちに学びながら、学者でもある「いま良寛さま」のような存在——島蘭進「序」より

佐々木宏幹 (たかきひろし) 1930年宮城県生まれ。駒澤大学文学部卒業。東京都立大学大学院博士課程修了(宗教学類)。駒澤大学名誉教授。文学博士。シャーマニズム研究の第一人者で仏教地理や寺院の実態にもよく通じ、日本仏教文化の諸相に関する論考も数多い。

初出 寛 あとがき

IX 人類学の視点から 「研究」について思うこと 生き神(仏)者 人格と仏格のあいだ 宗教観の重層性について 最近のソーシャルメディア 僧侶のコミュニケーション 葬祭文化の現状を考察する 最近の葬祭論から



# 手まり学園

## 寄附者御芳名(敬称略)

### R5.1.2~R5.5.8

所在地	寺院名(個人名)	金額
神奈川県	青木義次(113)	5,000
埼玉県	浄山寺	10,000
鳥取県	林泉寺	10,000
秋田県	歡喜寺	5,000
埼玉県	昌福寺	10,000
宮城県	玉川寺	10,000
北海道	法光寺	10,000
愛知県	永澤寺	10,000
神奈川県	本覚寺	20,000
熊本県	地蔵院	10,000
兵庫県	瑞光寺	20,000
長崎県	南明寺	10,000
茨城県	龍泉院	20,000
栃木県	満福寺	10,000
栃木県	宝生寺	10,000
愛知県	芳賀成明	10,000
茨城県	藤長寺	10,000
静岡県	龍雲寺	5,000
三重県	地蔵院	10,000
佐賀県	梶原玲子	5,000
神奈川県	松田薫	5,000
千葉県	宗胤寺	20,000
埼玉県	曹源寺	10,000
岩手県	円城寺	3,000
愛媛県	高嶋武彦	20,000
東京都	小林俊孝	10,000
東京都	児玉博	10,000
静岡県	甘露寺	50,000
神奈川県	高橋秀栄	10,000
秋田県	円通寺	10,000
静岡県	大雲院	3,000
北海道	大玄寺	10,000
三重県	光明寺	10,000
神奈川県	青木義次(114)	5,000
鹿児島県	龍光寺	20,000
東京都	西村滋美	10,000
埼玉県	吉祥院	10,000
群馬県	陽雲寺	10,000
岩手県	大光寺	10,000
東京都	石井友子	15,000
北海道	中央院	10,000
埼玉県	東昌寺	10,000
群馬県	永福寺	10,000
神奈川県	青木義次(115)	5,000
山口県	興元寺	10,000
宮城県	清水寺	10,000
千葉県	吉岡大龍	15,000
静岡県	天林寺	10,000
神奈川県	青木義次(116)	5,000
大阪府	吉祥院	10,000
合計		646,000

# 東 京 新 屋 門

2023年(令和5年)5月4日(木曜日)

(第3種郵便物認可)

世田谷区の下北沢エリアにある永正寺(北沢二)が、地域の子どもに自由に遊びや食事を楽しんでもらおうと「子ども食堂」をオープンさせた。初回は四月二十八日はコロッケや豚汁が振る舞われ、子どもたちが「おにい」とはおぼった。当面の間、毎月最終金曜日に開催する。幼児から高校生まで利用無料、付き添いの大人は二百円。

藤木隆宣住職が「子どもの遊び場が減り、引きこもりや虐待も問題になっている。気楽に来られる居場所を作りたい」と本堂を開放した。下北沢の土地柄、作家や劇団員など不規則な仕事づくしが多いことも想定し、実施日は午後三時から同九

## 下北沢のお寺が子ども食堂 住職「異世代が交流する場に」



お寺が始めた「子ども食堂」で食事を楽しむ子どもたち=世田谷区の永正寺で

時まで開く。読書や宿題などをして過ごす。

スタッフは地元のボランティアや大学生。藤木さんは「異世代が交流する場にもしたい」と意気込んだ。問い合わせは永正寺(電話03(6407)1785)へ。

(原田遼)

# 編集後記

藤木隆宣

今号の法清寺奈良さんのインタビューは大変参考になる内容です。特に出家修行者としての自覚を持って僧侶として生きることの大事さを仰っています。私達僧侶は多くは結婚して子弟としての子どももいます。僧侶も家庭生活を日々実践していますので、その中から生まれるいろいろな出来事はお檀家さんや信徒の方に伝えられます。身近な話題は親しみやすく失敗談も大いに結構かと思えます。

私の本務地東京都世田谷区北沢の永正寺で4月28日(金)に子ども食堂を始めました。20人位を想定していましたが、70人が来られ厨房は大慌てでした。反省点も多くありましたが児童教育部時代を思い出した。今当時は日曜学園でしたが、今回は金曜学園になりました。小庵ですが若いご家庭の方々が来てくださって、神秘的な空間とか、子どもがのびのびと過ごしていたなどのご感想も頂きました。今後も毎月最終金曜日15時から21時まで実施します。

## 仏教企画発行の刊行物 (\*部数により割引があります) すべて税別価格です

- 『修証義』解説 丸山劫外著 1,400円\*
- 『まんが問答一期一話』 文 平和宏昭 まんが 垣内敬遠 1,200円\*
- 『葬送のしおり』 長井龍道著 30円
- 修証義読本『生老病死』 須田道輝著 500円\*
- 『曹洞宗檀信徒経典』 須田道輝解説 300円\*
- 曹洞宗檀信徒必読『供養のすべて』 靈元文法著 140円\*
- 曹洞宗檀信徒必読『葬儀のすべて』 靈元文法著 150円\*
- 俳句随想 玉崎千鶴子 その永遠の世界を探って 500円
- 『観音の咒 大悲心陀羅尼』 渡辺章悟著 500円
- 『宗教人類学の地平』 佐々木宏幹編著 2,300円
- 『仏教人類学の諸相』 佐々木宏幹著 7月上旬刊行予定 2,300円

\*『仏教企画通信』を10部以上購読希望の方は一部100円で頒布致します。同封はがきの空欄にその旨をお書きください。(消費税、送料別)

### 曹洞禅グラフ

発行日

春 彼岸号	2月10日
夏 お盆号	5月30日
秋 彼岸号	8月20日
冬 正月号	10月30日

1部 200円

9部以下	200円
10部以上	150円に割引
20部以上	135円に割引
50部以上	130円に割引
100部以上	120円に割引
200部以上	110円に割引
300部以上	100円に割引
500部以上	90円に割引

### お申込み

〒252-0116 神奈川県相模原市緑区城山4-2-5  
TEL: 042-703-8641 FAX: 042-782-5117 Email: fujiki@water.ocn.ne.jp

### 仏教企画

\*ご寺院名後の番号(3桁もしくは4桁)がお客様番号(コード)になります。  
お申込みは ①ご寺院名 ②お客様番号 ③電話番号でも可能です。

道元禅を学ぶすべての人へ、  
訳注本の決定版!

『永平広録』

上堂語・小参全訳注(上)

◎A5判/384頁◎定価4180円(税込)

『永平広録』

上堂語・小参全訳注(下)

◎A5判/376頁◎定価4180円(税込)

曹洞宗龍宝寺東堂 木村清孝・著  
東京大学名誉教授



『正法眼蔵』とともに、道元禅師の思想的全体像を知るために不可欠な語録『永平広録』の現代語訳注本。門鶴本を底本とし、(上)は巻一から巻四まで、(下)は巻五から巻八(小参)までと道元年譜・人名索引・道元関連禅宗法系図を収載。

## 佼成出版社

〒166-8535 東京都杉並区和田2-7-1 TEL.03-5385-2323 FAX.03-5385-2334  
https://books.kosei-shuppan.co.jp/